

大型クラゲ分布調査

(有害生物出現調査並びに有害生物出現情報収集・解析及び情報提供委託事業)

森脇和也・沖野 晃

1. 大型クラゲ沖合域分布調査

(1) 調査方法

平成 26 年 7 月 22 日～7 月 23 日 (7 月調査) 及び平成 26 年 8 月 25 日～8 月 26 日 (8 月調査) にかけて、調査船「島根丸」により LC ネットを使用した採集調査を実施した。また、併せて船橋から目視調査を行った。

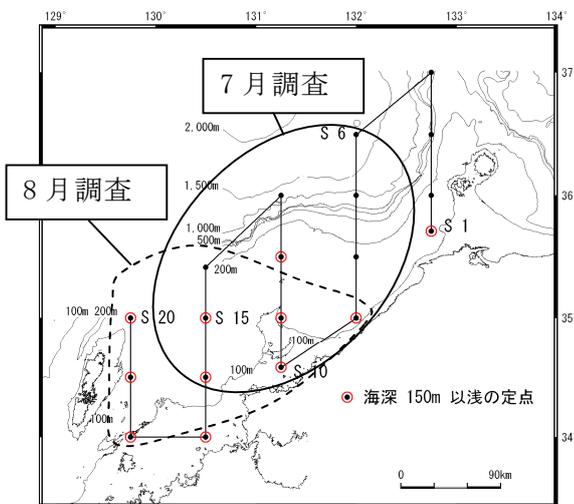


図 1 洋上分布調査定点 (赤丸は水深 150m 以浅)

調査定点は図 1 のとおりである。調査に用いた LC ネットは網口の幅×高さが 10m×10m で、調査海域の水深によって大型クラゲの分布層が異なると思われるため、下記のとおり水深によって曳網方法を変更した。

- 水深が 150m よりも深い場合は LC ネットを水深 50m まで沈め、水深が 150m よりも浅い場合は概ね海底から 20m 上まで沈める。
- LC ネットを予定水深まで沈めた後、ワープの繰り出しをストップし、1 分間曳網する。
- 揚網はワープの巻き上げ速度を毎秒 0.3m、船速を 2～2.5 ノットで行う。

(2) 結果

採集結果は付表 1 に示した。

7 月、8 月調査では LC ネット採集、目視調

査ともに確認されなかった。

2. 洋上目視調査

(1) 調査方法

①調査船「島根丸」

船橋から目視による観察を行なうとともに、水温、塩分等の海洋観測を実施した。調査は 7 月に 1 回実施した。調査定点は図 2 に示すとおりである。調査方法は定点から 2 マイルの距離を航走する間、船橋両舷から目視されたエチゼンクラゲを大 (傘径 100cm 以上)、中 (傘径 50～100cm 未満) 小 (傘径 50cm 未満) のサイズ別に計数した。

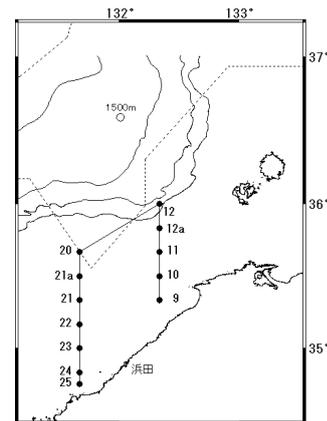


図 2 島根丸洋上目視調査定点

②漁業取締船「せいふう」

船上から目視観察を行った。調査は 8 月～11 月の間、定点を決めず県内海域において昼間に実施した。計数は航行中船橋両舷から目視されたエチゼンクラゲを大 (傘径 100cm 以上)、中 (傘径 50～100cm 未満) 小 (傘径 50cm 未満) のサイズ別に行った。

(2) 結果

目視観察結果を付表 2 に示した。

「島根丸」および「せいふう」による調査では全く目視確認できなかった。

3. 陸上調査

(1) 調査方法

漁業協同組合 JF しまねからの来遊状況の聞き取り調査および標本船調査を実施した。

聞き取り調査は、平成 26 年 8 月～12 月の間、JF しまね各支所へ直接、もしくは各水産事務所を介して電話により情報を収集した。

標本船調査は、定置網漁業 4 ヶ統(浜田市、江津市、出雲市、西ノ島町)、沖合底びき網 7 船団(本県に所属する全船団)に 8 月から 12 月まで、小型底びき網漁業 3 隻(浜田市 1 隻、大田市 1 隻、出雲市 1 隻、うち 1 隻は平成 25 年から沖合底びき網漁船に転籍したが、小型底びき網漁業として扱っている)に 9 月から 12 月までの期間とした(図 3)。それぞれの船に操業ごとの入網数(底びき網漁業は操業位置および入網数)、大きさ、被害状況、対策実施の有無について野帳記入を依頼した。

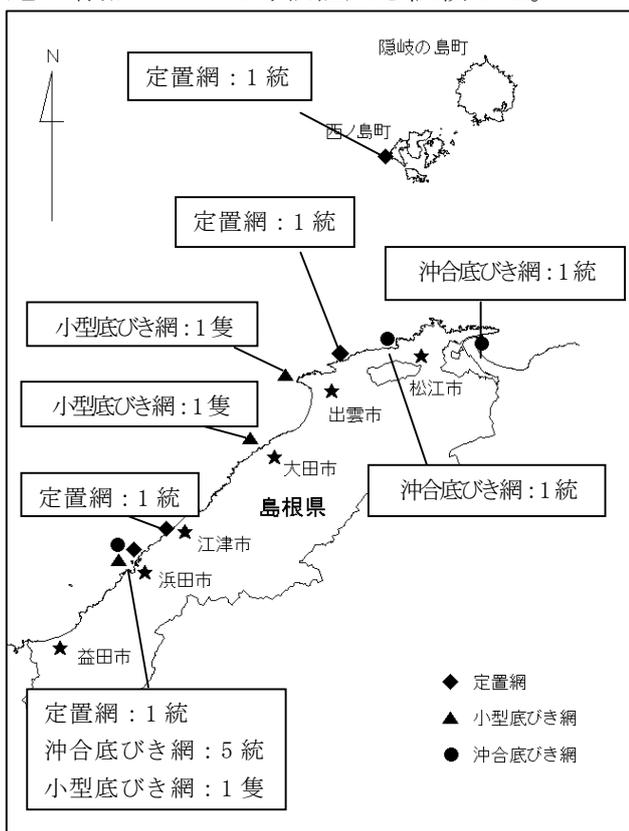


図 3 標本船配置箇所

(2) 結果

聞き取り調査および標本船調査の結果をそれぞれ付表 3～6 に示した。

平成 26 年度における大型クラゲの確認数

は殆ど無く、漁業被害が出ることはなかった。

① 定置網漁業標本船

エチゼンクラゲの旬別入網状況を図 4 に示した。今年度は、殆ど大型クラゲは入網せず、石見区で合計 7 個体、出雲地区で合計 12 個体、隠岐地区で合計 1 個体が確認された。一度に入網した大型クラゲの最大量は、石見地区では 10 月に 2 個体、出雲地区では 3 個体の入網があったが、殆どは 1～2 個が散発的に入網する程度に留まった。これによる漁業被害は無かった。

② 小型底びき網漁業標本船

今年度は 10 月下旬に島根半島沖で 1 個体が入網したのみであり、漁業被害は無かった。

③ 沖合底びき網漁業標本船

エチゼンクラゲの旬別入網状況を図 5 に示した。今年度は 8 月下旬から 11 月中旬にかけて、890・900・981・991 農林漁区で合計 17 個体が入網があったが、漁業被害は無かった。

なお、標本船調査・聞き取り調査の結果は大型クラゲ被害防止緊急総合対策事業において一般社団法人漁業情報サービスセンター(以下、JAFIC とする)が実施している大型クラゲ出現情報にデータとして提供した。また、大型クラゲ情報として FAX と水産技術センターホームページ上で情報提供を行なった。

4. 総括

平成 26 年度の目視情報・入網情報による大型クラゲ来遊量及び漁業被害は殆ど無く、平成 22 年度を境に少量で推移している。今年度当初は、7 月上旬の東シナ海や九州北部海域における目撃・入網情報などから、来遊量は少量である前年並みと予測された。実際は、平成 14 年以来最も少ない来遊量となり、島根県を含むどの海域でもほとんど漁業被害は無かった。

JAFIC や日本海区水産研究所は、近年大型クラゲの来遊量が少ない状態が続いているものの、再び増加する可能性もあるので各県に注意を呼び掛けている。

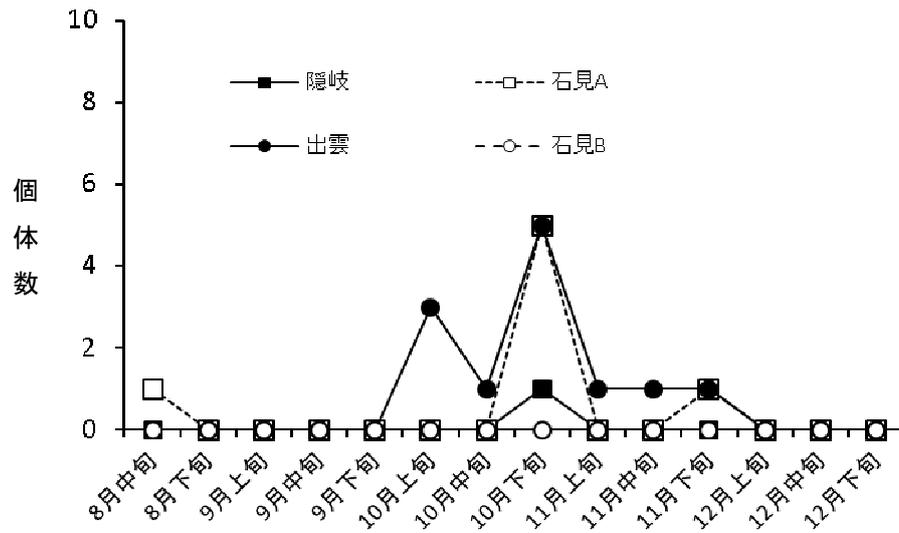


図4 定置網漁業標本船のエチゼンクラゲ旬別入網個体数

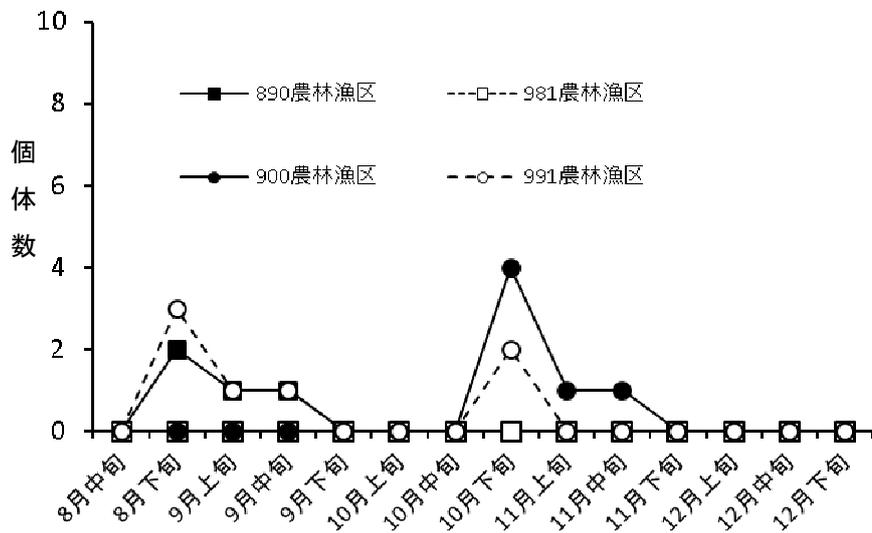


図5 沖底びき網標本船のエチゼンクラゲ旬別入網個体数